

壁画「花火」



藤枝市中ノ合26-1
医療法人社団 ^{やしまかい}八洲会
誠和藤枝病院
<054>638-3111(代)

診療時間
月～金
午前 9:00～午後 5:00
土曜日
午前 9:00～正午12:00

「終末期医療③ー看取りー」

誠和藤枝病院
医師 八木 誠

私が生まれた一九四九年当時、高齢者の八十%以上は自宅で亡くなっていた。徐々に元気がなくなつて、食べが悪くなり、床に伏し、静かに息を引き取る。老衰という死が当たり前の時代であつたようだ。

一九七〇年代に入り、救急医療の発展と相まつて病院志向が強くなつた。活気がない、食事が進まない、ポットとしている、熱っぽい、といつてはすぐに救急を受診する。検査をすれば、脱水やごえん性肺炎や尿路感染症などがみつかる。いろいろ治療を受けても一氣に弱つてしまう。家族には家でみる自信もパウーもないことが多い。そこで療養型の病院や施設に入ることになる。二〇一一年の時点では、高齢者の八十%近くが病院で亡くなつている。

日本は世界で類を見ない長寿国となり、最

近の平均寿命は男性で八十歳、女性で八十六歳である。しかしながら、日常的に介護・看護を必要としない健康寿命は、これより男性で十年、女性で十三年も短い。

わが誠和藤枝病院でも多種多様な高齢者が入院なさり、多くの患者が死亡退院されていく。終末期を迎える患者さんで、自分の意思を表示できる方は少ない。よつて、患者さんが元気な頃、「自分が最期に近くなつたらどうして欲しいと言つていたか」、が大事となる。希望を伝えてなかつた場合には、家族が何を望み、何をして欲しいかわからないか、に耳を傾けることが極めて重要と思われる。

一日でも長生きして欲しいと願う家族も、多々おられる。その場合には、人工呼吸器や人工透析を除く、当院でできる限りの治療をして差し上げるべきであろう。末梢点滴や中心静脈栄養、経鼻経管栄養や胃ろうなど、人工的水分・栄養補給はまさに命綱である。

一方、何もしないで早く楽にさせてやりたいと願うご家族も、たまにおられる。日本老年医師会の立場表明でも、この十年余で、医師主導の医療から患者中心の医療へと移行してきている。世の中も、その人らしい尊厳のある終末期を迎えたい、という機運が高まりつつある。ご本人の尊厳を重視して、「本人の嫌がることはしない」、「家族の望まないことはしない」、ということをして、本人・家族および医療ケアチームで考える。最期は家族と病院スタッフが静かに見守る、そんな看取りが、病院においてもあつてよいのではないかと思われる。

働きやすい職場って？

1B看護主任 和田貞子

私が、誠和藤枝病院で働いて、16年経ちました。自分でも長く働いているなと思いましたが、前をみると、病院の開院当初から、働いている先輩方が数名いらっしやいます。

では私より後に入った人は？と考えると中間の人は、少なくとも最近では、新人ヘルパーさんが多いです。看護師の研修でもよく「離職」がテーマになります。当院だけでなく他の病院や施設でも、せっかくな仕事覚えても、やめてしまう人が多いのが問題となります。教える側も、仕事を覚えてもらおうと、必死になら、言い方が変かもしれませんが、その時のエネルギーが無駄になってしまったと思います。看護師やヘルパーの

適性があるかも知れませんが、私達ができる事は、やめない働きやすい職場をつくっていく事です。

それには、まず教育をしっかりと行う事です。

基本になる事は、しっかりと教育する必要がありますが、患者さんが変化した時、今まで行っていた同じ事は、できないという考えを持ってほしいと思います。業務に問題があれば業務改善を行い、みんなの良い意見が出せるような話し合いの場が持てたらと思います。

看護師、ヘルパーがいつもコミュニケーションを持って、協力、連携していくことで、明るく、働きやすい職場ができ、それが患者さんへの良いケアにつながると思っています。でも、今は多くのヘルパーさんが入職して、しっかりと仕事を覚えてもらって、仕事の流れが、スムーズに行くよ

うにと思っっているのは確かです。新しいヘルパーさん達が、今後、10年とか20年この病院で働いていけるような、働きやすい職場を常に考えていきたいと思えます。

介護士になって

1B介護主任 浦崎栄樹

介護の仕事をしてみたいと思ったきっかけは、人の為に何かをしたい、役に立ちたいと思った事。そして介護士になり十数年が経ちました。思ったより体力的にも精神的にも、ハードな仕事でした。中でも認知症を伴った患者様のお世話が一番とまどいました。お世話をしても満足してもらえず悩んだ事もありました。まわりの方々に積極的に相談できる性格ではない為、先輩方の指導に耳を傾け、がんば

ってきました。

介護の仕事をしている中で患者様から「いつもありがとう」の言葉は何年経つても、うれしい言葉です。また、会話の出来ない患者様でも、介助中に触れる事で気持ち伝わっているのでは：と目が合った時、そう思う事があります。介護士になって先輩方に支えられ、今では指導する立場になり、自分自身、毎日勉強になっていきます。

良い事もあれば辛い事もある。辛い事もあれば良い事もあると思いつながら、不器用ですが、これからはがんばっていきたいと思えます。



5月



平成26年5月2日
通所リハビリにてカラオケ大会～♪

平成26年5月2日
藤棚の下でお食事会を開催しました。

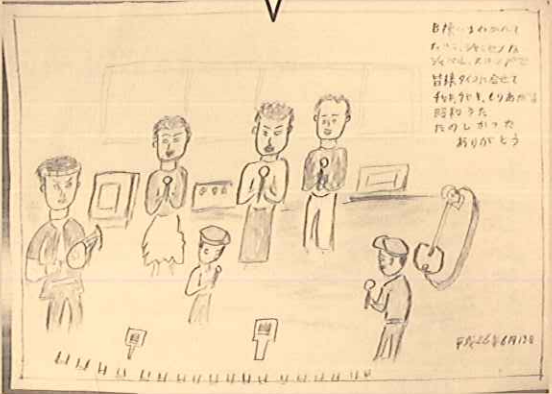


6月



平成26年6月13日
ボランティア ほほえみサークルさん来院!

ほほえみサークルさんをご観覧になった患者様から、
絵とお手紙を頂きました。



7月



平成26年7月2日
じゃがいも収穫!

**その他
多数のイベントが
開催されました。**

ホームページ上では
全ての写真がカラーで
見られますので、
是非一度ご覧ください。

誠和藤枝病院

<http://www.seiwa-fujieda.jp>

クリック

受付にて

医事課 中島ひろみ

はいなん吉田病院から誠和藤枝病院に異動となり、早いもので一年が経ちました。

誠和藤枝病院に勤務して感じたことは、正面玄関と受付との距離が短いため、来院者様への対応が手早く円滑に行うことが出来るということです。

また、通常私たち受付業務に携わる者は、入院患者様や通所利用者様と顔を合わせる機会があまりないのですが、ここ誠和藤枝病院の通所とリハビリ訓練室は同じ一階にあるため、通所利用者様や入院患者様がリハビリのたびに受付の前を通られることが多く、その都度素敵なお笑顔で挨拶をしてくださることが日々忙しい業務に追われる上でとても力となります。更に、患者様がリハビリにより徐々に元気になられる様も目の当りにすることが出来ます。今後も通所利用者様、入院患者様の笑顔に支えられ、より良いサービスを提供出来る様心掛けていきたいと思っております。

職 員 募 集

◎ 正・准看護師

◎ 介護職員

詳しいお問い合わせは(054)638-3111 担当 事務長まで

編集後記

今年の夏は広島島の豪雨などに見られる様に天候がとても不安定でした。

しかし、9月に入った頃から急に朝・晩が涼しくなり秋らしくなりました。季節の巡っているのを肌で感じています。

今回も院内報の編集にご協力いただき、ありがとうございました。